

2013年6月15日、第25回日本ジェイムズ・ジョイス協会研究大会が開催されます。会場は京都大学・文学部となります。プログラムは別紙の通りです。ご出欠のハガキを同封しましたので、5月中の投函をお願いいたします。今回の Newsletter には、研究発表要旨、シンポジウム、FWワークショップの梗概を掲載しました。

#### Topics

- 第25回研究大会
  - ～研究発表要旨、ワークショップ梗概、シンポジウム梗概～
  - ～懇親会について～
  - ～御昼食用レストラン情報～
- 事務局より
- (別紙) 大会プログラム / 懇親会案内

## 第25回研究大会 研究発表要旨、 ワークショップ梗概、シンポジウム梗概

### 1. 研究発表（発表順）

#### (1) 三つの切り口で“A Painful Case”を読む

上條 裕佳

“A Painful Case”を三つの切り口で読んで私なりの解釈を試みたので、その結果を紹介することが本発表の目的である。

最初の切り口は、ニーチェの作品との類似点である。この作品にはニーチェの本「ツァラ

トウストラかく語りき」と「悦ばしき知識」が登場する。「A Painful Case」の中にニーチェの二つの作品と類似した描写がないか調べてその類似点からこの作品の解釈を試みた。

二つ目の切り口は、マインドとハートの面からこの作品を解釈した。ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈氏は雑誌で次の様に述べている。「人間の心はハートとマインドの両面を持っているが、何か不慮の出来事が急に起こった時、日本人ならばハートが先で、マインドは後に働くように思われる。西欧人の場合には多分その逆になるのではないであろうか。」新聞でシニコウ夫人の死という「急な不慮の出来事」に対してダフィ氏は最初にマインドで反応し、かなり批判的に彼女の死を解釈している。しかし、時間が経つにつれてハートが反応して彼女に対し同情的な考えが浮かび、自分の責任を感じる様になった。このように解釈すれば江崎玲於奈氏の考えと一致する。他の場面についても、ハートとマインドの面から解釈をおこなった。

三つ目の切り口は、力学で使われる「摂動法」という考え方である。数学的に厳密に解けない複雑な問題の場合、その一部に小さな変更を加えて厳密に解ける問題に置き換えてそれを解く。次にその解から本来の問題の解を求める方法である。この考え方を応用して“A Painful Case”を読んでみたので紹介する。具体的に言うと作品の一部に小さな変更を加えて作品の解釈がどの様に変化するか考察することにより、本来の表現のジョイスの意図を解釈した。

これらの解釈からダフィ氏の人物像について考察してみたい。

## (2) 紙に書かれたもの ——「さまよう岩々」とダブリンの地図——

平繁 佳織

フランク・バジェンによる印象的な一節によれば、ジョイスはダブリンの地図を目の前に広げて『ユリシーズ』の第十挿話「さまよう岩々」を執筆したという。この挿話はダブリンの複数の地点で同じ時間帯に起こる様々な出来事を描く 19 の断片から成る。一見すると何の共通点も有していない断片がひとつにまとめられている背後には、これらを俯瞰しているマクロな視点が感じ取れる。

近年、Jon Hegglund, Eric Bulson らによって、ジョイスが『ユリシーズ』執筆の際に使用した地図が英国陸地測量局(Ordnance Survey)の作成したものであったことの重要性が指摘された。「さまよう岩々」の最後の断片は、アイルランド総督の騎馬行列がそれまでに出てきた人物たちに目撃あるいは無視される様子を描いており、空間的に切り離された個々の断片をひとつにまとめる役割を担っている。その意味で、本挿話においてジョイスは英国陸地測量局による地図作成の過程を辿っている。また、第十挿話に出てくる多くの人びとが「読むこと」に従事していることも重要だ。読むという行為は常に解釈を伴い、翻ってその書き手に注意を喚起することにもつながる。本も地図も、紙に書かれたものとしてはさほど違いはない。

この挿話において「書くこと」が出来るのは、最初と最後の断片で象徴的に採り上げられる教会・宗主国の面々だけである。しかし「さまよう岩々」は、そのように「二人の主人」に囲まれた

ダブリンの人びとの麻痺状態を描いているわけではない。事実、本挿話に出てくる人びとはみな生き生きとしており、直前の第九挿話のはりつめた雰囲気と対照をなしている。そんな彼らを形式上まとめているのが、彼らの敬意を集めることのできない総督の騎馬行列であるという状態にこそ、ジョイスの提示する二十世紀初めの植民地アイルランドの実情を見て取ることができるだろう。『ユリシーズ』の計画表によれば、この挿話の学芸は「機械学」である。ジョイスは緯度と経度という一見すると中立的な単位に基づいて機械的に土地を区分する地図作成法が、本と同じく紙に書かれたものとして権力と結びつくものであることを十分に認識した上で、ジョイス流のダブリンの縮図をこの挿話において打ち出している。

### (3) 『ユリシーズ』におけるポルノ的側面とモリーの語りの芸術性

田中 恵理

『ユリシーズ』には、女優や人魚のポスター、タバコに入っているカード、雑誌の写真やブルームが購入したポストカードなどポルノグラフィの類が処々出てくる。第 11 挿話での女給のエロティックな芸や第 13 挿話でのガーティがブルーム相手に行うストリップショーのような行為などもポルノグラフィの様相を帯びている。また、ブルームの窃視癖もポルノ映像を見る観客が得るようないわばポルノ的快感に基づいているといえる。本発表では、『ユリシーズ』におけるこうしたポルノグラフィの要素を考察しながら、男性登場人物が女性を「見るもの」として捉え、女性に向けて性的欲望の充足を目的としたポルノ的な視線を送っていることを明らかにする。加えて女性登場人物は、男性の送る視線に気がついていて、それを恣意的に利用しながら自己表現しているという事実も読み解く。

その上で、第 18 挿話のモリーの語りに注目する。ヘンケ (Suzette A. Henke) が「モリーは、ポルノグラフィに描かれる妖婦を真似ている」と述べているように、モリーを娼婦のような存在と見なす立場は少なくはない。しかし、モリーの自己描写は、他の女性登場人物の誘惑的な自己表現とは全く異なると考える。モリーの独白は、読者はさておき、見る人もしくは聞く人、つまり視線を送られる相手を特に想定していない。しかしだからこそ、相手を喜ばせるような美しく魅惑的な内容ではなく、嫉妬や怒り、うぬぼれやコンプレックスなどがごた混ぜに渦巻いた、ありのままの内面がさらけ出されているのではないだろうか。モリーが赤裸々に暴露する老いや母性、生殖に関する自己決定能力、女性主体のセクシュアリティなども本来なら隠すべきテーマだろう。なぜなら、男性は、こうした性質を欲望発散の相手が有していることを望んでいないからである。他の女性が、男性が見る世界に順応して生きているのに対し、自らが見て感じる世界、つまり男性には不可視の真実を表現しているモリー。彼女の語りは、男性中心の見方によるポルノ的性描写が昇華された芸術作品といえる。

## 2. ワークショップ

### *Finnegans Wake*, III.3 (474.1-485.7)

司会兼講師 山田 久美子  
講師 小島 基洋  
講師 田村 章

#### 横たわるショーンの詩学

小島 基洋

『フィネガンズ・ウェイク』第三部第三章は横たわるショーンと共に始まる。彼はその手足をコナハト、マンスター、レンスター、アルスターへと広げたまま眠りこけている。土地と一体化する身体というモチーフから即座に想起されるのは、もちろん彼の父親たるHCEである。彼もまた頭をハウス岬に置き、ウェリントン塔を両足で挟みつつ、ダブリンに悠然と横たわっていた。更に連想を広げれば、リリパットの国で捕獲されたガリヴァー船長の姿や、『ユリシーズ』第五挿話で浴槽に横たわるブルームの姿が思い出されるかもしれない。本発表では横たわるショーンの姿を足がかりに、ジョイス作品の奥底に秘められた創作技法に光を当ててみたい。

#### アイルランド史の記述について—古代アイルランドと聖パトリックを中心に—

田村 章

『フィネガンズ・ウェイク』第三部第三章の中心的問題の一つが歴史記述である。本章で、ヨーンは歴史すべての貯蔵庫となっており、mamalujo (476.32)の四老人がヨーンに行く尋問を通して、読者は宇宙の創造から近代都市の建設に至る歴史を目の当たりにする。歴史書もたびたび取り上げられており、Annals of the Four MastersのみならずHolinshed's Chroniclesや旧約聖書の歴史書の一つ Esther 記などが現れている。ワークショップの範囲の中で、歴史への言及を最も端的に示す箇所は、“Name yur historical grouns. This same prehistoric barrow ‘tis, the orangery.” (477.35-36)であろう。ヨーンは先史時代の巨大な塚となって横たわっており、あとで、“Trinathan partnick dieudonnay”(478.26)であると認めるようにジョナサン・スウィフト、トリスタン、聖パトリックでもある。ジョイスの『ウェイク』における歴史の扱いについて、先史または古代アイルランドへの言及と聖パトリックの描写に特に注目しながら考えてみたい。

## この手の稲妻よ、我が言葉となれ

山田 久美子

眠るヨーンが夢の中で四人から尋問を受け、さまざまな登場人物がヨーンの声借りて尋問に応える『フィネガンズ・ウェイク』第三部第三章冒頭部分。その中でも目を引くのが、一人称代名詞多数を含む日本語および漢字への言及である。この加筆のきっかけとなったのが、アーネスト・フェノロサ著『詩の媒体としての漢字考』における「わたくし」を表す五つの漢字「我」「吾」「己」「台」「予」の説明である。ジョイスの創作ノートには、フェノロサによる「我」の解字「手と戈」*spear in hand* が転記されている。「戈」はジョイスによって「太矢」または「稲妻」を意味する *bolt* に置き換えられ、“*This bolt in hand be my word!*” (483.15-16) となったと思われる。1919年『リトル・レビュー』誌にエズラ・パウンドの編集によって連載されたこの論考が、ジョイスの創作に影響を与えた可能性について考えてみたい。

### 3. シンポジウム

#### ジョイスと動物

司会	道木	一弘
講師	南谷	奉良
講師	小林	広直
講師	山田	幸代

ここ数年、いわゆる動物論 (Animal Studies) が注目されている。その背景には食肉と動物の権利をめぐる問題、動物行動学や認知科学による動物のコミュニケーション能力への関心の高まり、そして人文科学における人間中心主義からのパラダイム・シフトの動きがある。多様な研究分野と様々な立場から動物と人間をめぐる議論が欧米はもとより日本でも始まっており、そこでとりわけ重要な役割を担っているのがデリダの動物論 (*The Animal That Therefore I Am*, 2006 / 2008) である。本シンポジウムでは、このデリダの動物論を踏まえて、三人の若手研究者がそれぞれの観点からジョイスの作品を読み解く。

南谷は、主にヨーロッパにおける動物論の歴史を概観した上で、*Stephen Hero* で用いられる「生体解剖」という言葉と動物の「痛み」に着目し、その歴史的意味に光を当てる。小林は第15挿話に現れる亡霊達と第3挿話に登場する犬(および狐)の関わりを分析し、その正体の謎に迫る。山田は *Ulysses* 第4挿話のブルームと猫の「会話」を手掛かりに、そこに秘められた動物と人間の新たな関係の可能性を探る。(道木 一弘)

## 動物たちの地獄 — 『スティーヴン・ヒアロー』にみる近代と生体解剖

南谷 奉良

*Stephen Hero* の主人公にとって、かつての聖体は「一片のパン」と化し、イエスは「普通名詞」となった。「中性名詞」化された売春婦(scortum)が人間から除外されるかとおもえば、大学の人間たちは「植物」に、女性たちは「有袋動物」として認識される。ではいったい「動物」は何に変えられるのか。*SH* の動物たちはしばしば比喩や寓意に用立てられるが、ある謎めいた一節 “Vivisection itself is the most modern process one can conceive.” を解読することで、テキストの表面では見えなくなっている〈動物たちの地獄〉が浮かびあがってくる。

*SH* のなかで生体解剖の意味は主人公の近代的精神や美学理論へと比喩的に転用されており、その背景となっている「現実的なもの」が「抽象的なもの」へと変えられることで、いわば内実を空にされている。本発表ではここに、ヴィクトリア朝における他者への哀れみの源泉を通して「痛みに対する感受性」が高まった時代、19世紀後半から20世紀初頭にかけて英米圏を中心に起こった生体解剖論争の歴史的背景を一つの注釈として注ぎこむ。これにより、のちのスティーヴンの述懐 “We are all animals. I also am an animal.” に補給を行っている、デリダが“Limitrophy”と呼ぶものがあらわれてくる。

## Who is beastly dead? — 「キルケ」における犬と狐の表象

小林 広直

ジョイスがバジエンに語った構想によれば、『ユリシーズ』第15挿話の「キルケ」は、衣装(変装)の挿話であると同時に、動物の挿話(an animal episode)であるという。事実、動物(のイメージラリー)は『ユリシーズ』全編に渡って頻出するが、「キルケ」における動物表象は、それまでの挿話を総括するかのようには重層化され多義的である。同様に、性欲が蠢く夜の街において大変印象的なのは、ブルームの両親とルーディ、そしてスティーヴンの母など、多くの亡霊が現れることである。とりわけ、犬からまさしく転生する(Metempsychosis) ディグナムの亡霊は、生者と死者、あるいは人間と動物を繋ぐ中間的存在として極めて興味深い。そしてこの亡霊は、スティーヴンの母の亡霊とも多く共通点を持つ。

本発表では犬と狐の表象が「キルケ」においてどのように結びついているかを考察し、最終的には、第3挿話に登場する溺死した犬こそが、ディグナムの亡霊の「起源」なのではないかという仮説を提示したい。

## Alterity, thy name is Animal – 『ユリシーズ』にみる動物と人間の関係

山田 幸代

動物について考えるにあたってデリダは「何はともあれ、寓話を避けることが必要だろう (Above all, it would be necessary to avoid fables.)」(37)と言う。人間が言葉を使って動物について考えるとき、それはつねに一方的に行われる。したがって寓話の中の動物の姿は、私たち自身を写し出す鏡となる。言うまでもなく『ユリシーズ』にも、人間中心的な動物表象は頻出する。例えば、猫は比喩的に女性に結びつけられる。またことわざにも使用され、そこから“Cat o’ nine lives!” (15.3463) と言葉遊びもされる。こうした歴史の中で当たり前に行われてきた動物の「寓話化 (fabulation)」を、デリダは解体する。もっと別の方法で、動物について考えなければならない。だがそれはいったい、どのような方法なのだろう。

そうして考えていくと、第4挿話でブルームが初めて登場するシーンが、意義深いものに見えるのではないだろうか。この主人公はまず誰とではなく、何より動物と会話をする。そして動物に食べ物を与えつつ、動物の内臓を食べる。この一見すると矛盾するかのよな彼の姿には、ヒントが含まれているように思われてならない。

\*\*\*\*\*

### 懇親会について

18:00からは懇親会が行なわれます。会場は京都大学「楽友会館」です(プログラム裏面の地図を御参照ください)。

懇親会費は、ドリンク込みで 5000 円となっております。事前にお振込みください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

[HPはこちら→<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/facilities/kyoshokuin/rakuyu> ]

\*\*\*\*\*

### 御昼食用レストラン情報

今回、お弁当は用意しておりませんが、昼食につきましては、正門を入ったところにある、レストラン「カンフォーラ」のランチをおすすめします。

\*HPはこちら→[http://www.s-coop.net/shop\\_info/yoshida\\_head/camphora/](http://www.s-coop.net/shop_info/yoshida_head/camphora/)

また、もう少しリッチに、と思われる方には、フレンチレストラン「ラ・トゥール」が時計台記念ホールの1階にあります。

\*HPはこちら→<http://www.madoi-co.com/food/la-tour/>

以上の2軒とも、京大の本部構内(文学部と同じ敷地)にあります。

そのほかにも、周辺にはレストランがいくつかあります。

\*\*\*\*\*

## 事務局より

\* 日本ジェイムズ・ジョイス協会の会費 5000 円（学生会員の場合 3500 円）は、安全のため、すべて「振込」とさせて頂いております。（会場ではお受けできません。） 下記「ゆうちょ銀行」の口座へお振込みください。振込用紙は郵便局に備え付けのものを御使用ください。（ATM 機でしたら用紙なしでも可能です。）

\* 通信経費節約のため、通常領収証は単独ではお送りしておりませんが、研究大会当日の受付にてお渡しできるよう用意いたします。（ただし、大会直前ですと口座の確認ができませんので、できるだけ5月中のお振込みをお願いいたします。） また 研究大会・御欠席の方には、後日送付する Joycean Japan に同封させて頂きます。

\* 領収証をお急ぎの場合、その旨、同封の出欠ハガキの備考欄にお書き添えください（e-mail 可）。 事務局にてお振込みの確認が済み次第郵送いたします。

\* 誠に恐れ入りますが、振込手数料は会員の皆様にご負担頂いております。

\* ゆうちょ銀行へは、他銀行からの振込みが可能になりました。 ただし郵便局からの振込みとは異なり、新たに設定された店名・預金種目が必要になり、口座番号も若干異なりますので、お知らせいたします。

■銀行名： ゆうちょ銀行

■金融機関コード： 9900

■店番： 048

■預金種目： 普通

■店名： 〇四八 店（ゼロヨンハチ店）

■口座番号： 0185454

住所変更をされてこの Newsletter が転送で届いた方は、お手数ですが右記事務局宛にお知らせください。（e-mail 可）



### 日本ジェイムズ・ジョイス協会 事務局

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学教育学部

吉川信研究室内

メールアドレス: sean\_jjsj\_since08june(at)ybb.ne.jp

ゆうちょ銀行 口座番号: 記号 10430 番号 1854541

(名義 日本ジェイムズ・ジョイス協会)